

TCプログラムとは？



半年から1年半程度生活や作業を共にし、週3日2時間半程度のプログラムを受ける。

→共同体の中で相互に支えあうことで新たな価値観や生き方を身につけ、人間的成長を促す。

このプログラムは日本で唯一、島根で導入！

●プログラムでは・・・

様々な題に沿ってグループワークのように意見を出し話し



合う。役割分担もあり、リーダーとしてまとめたり、

新メンバーとしてグループに新しい価値観をもたら

したりする者もいる。

笑顔も多く、和やかな雰囲気
のプログラム！訓練生もリラックス
して話していた！

出所後の支援

●問題点

・再犯は仕事や住居、相談相手がいない
状況で引き起こされることが多い。



・情緒的な問題や、高齢、障害などの社会適応への
困難を抱えている人が多い。

●取り組まれている支援（島根県）

・更生保護施設（全国103箇所：令和5年8月1日）

→頼る人や帰る場所がない人などに一定期間各種支援を行う

・協力雇用主→刑務所出所者の事情を理解したうえで雇用し、改善更生に協力する

・コレワーク→刑務所や少年院に入っている人と、求人を考えている事業主をつなぐ

※その他 ハローワーク、自立準備ホーム

出所後のことを考えて不安を抱
いている人も！ 出所後の基盤
や就職先は重要なポイント！

島根あさひ社会復帰促進センター

見学から学んだこと

訓練生について

話し合いを通して自分の感情を素直に表現したり、客観的に自分と向き合ったりしていた。自分の様々な側面を受け入れるとともに、他の訓練生のことも受け入れ支えあっているようだ。前向きな言葉もある一方で、社会復帰や偏見に対する不安を抱える様子もある。その様子から出所者のことを偏見なく理解し、受け入れる社会を作っていくことの重要性を学んだ。出所者が社会に受け入れられてこそ、更生が意味あるものになるだろう。

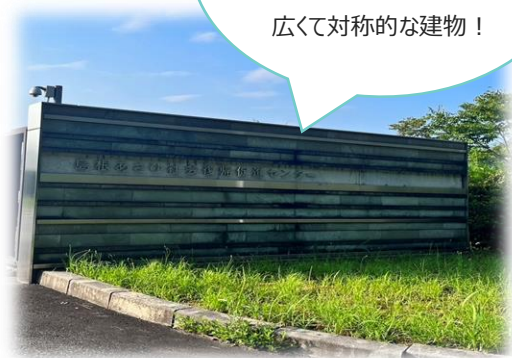
職員の方々の話から

職員の方々と訓練生との関わりにおいて、一番に「対等」という印象を受けた。施設の内外に関わらず、訓練生が社会の一員として自立できるよう、長期的な視点で支援を行っているようであった。支援の中では訓練生の本音を引き出し寄り添う姿が多く見られた。

あさひ島根社会復帰促進センター

国が民間に委託した4つの官民協同運営刑務所のうちの一つで、平成20年10月に開所した。施設の対象者は、罪種問わず初めて刑務所に収容される成人男性で、2000名を収容することが出来る。

建物が、明るく綺麗で
過ごしやすい雰囲気！
広くて対称的な建物！



映画『プリズン・サークル』

島根あさひ社会復帰促進センターを舞台にしている。日本の刑務所で唯一導入されているTC(Therapeutic Community)というプログラムに焦点をあて、変容していく受刑者の姿を映し出している。

島根発信隊の取り組み

●活動の目的

啓発活動を通して、受刑者の人権問題や共生社会について考えるきっかけづくりを行う。

●活動の計画

期間	内容
令和5年8月	島根あさひ社会復帰促進センター 吉田氏オンラインでの講演会と施設の見学
令和5年9月	上映会準備
令和5年10月	飛鳥祭での自主上映会の開催とアンケートの実施
令和5年11月 ~ 令和6年1月	子ども新聞作成
令和6年2月	子ども新聞・パンフレットの寄贈

●活動への思い

更生が意味あるものになるように社会全体で受け入れられるような地域づくりを目指したい。

表紙の絵について~パラダイムの転換~



その時代や分野において当然とされていた認識や思想、価値観などが革命的に変化することをパラダイムの転換（パラダイムシフト）と言う。一度固定された価値観を別の角度から捉え、新たな価値観を受け入れることは現代において重要な視点となるだろう。この絵は2通りの見方がある。別の角度から捉えると「若い女性」と「老婆」が見つかるはずだ。

映画『プリズン・サークル』 から考える これからの共生社会

何の絵に
見えますか？



by 島根発信隊